

講座 楽器の中の聖と俗

第76回目となる講座「楽器の中の聖と俗」は、大阪音楽大学名誉教授で当館名誉館長である西岡信雄先生を講師にお招きし、今回は琉球王朝の新春を祝う儀式「朝拝御規式」についてお話しいただきました。この儀式は今も毎年三が日に首里城で再現されています。講座では、先生が現地で撮影された映像を見ながら、厳かに進行する儀式や、「ウシブラ」や「ウマブラ」などの楽器について解説してくださり、さらには一度廃れた芸能を復活させることの難しさも教えてくださいました。なお、今回をもちまして、当講座は終了いたします。今まで参加してくださった皆様、そして西岡先生、長い間本当にありがとうございました。

講座・楽器の中の聖と俗「朝拝御規式」

日時：平成31年3月2日(土) 13:30～15:00

会場：研修交流センター 401会議室

講師：西岡信雄(大阪音楽大学名誉教授・浜松市楽器博物館名誉館長)

受講者：24人



ミュージアムサロン「オカリナ」

オカリナの故郷イタリアより、ブードリオ・オカリナ合奏団(GOB)のオカリナ奏者エミリアーノ・ベルナゴッツィさんをお招きしてミニコンサートを開催しました。コンサートでは、おなじみのアニメ映画音楽の楽しい雰囲気から始まり、イタリア宮廷の優雅な曲やスペイン風の勇ましい曲、あるいはG.P.ルッキーニ作曲「雄鶏と雌鶏」では、エミリアーノさんが「コケッコケツ」とまるで本当の鶏の鳴き声のような音で演奏したりと、素朴だと思われがちなオカリナの、実にさまざまな表情を見ることができました。最後は「故郷」を、共演のソプラノ歌手マルツィアさんと会場のお客様と一緒に合唱するなど、心暖まるコンサートとなりました。

ミュージアムサロン「オカリナ」

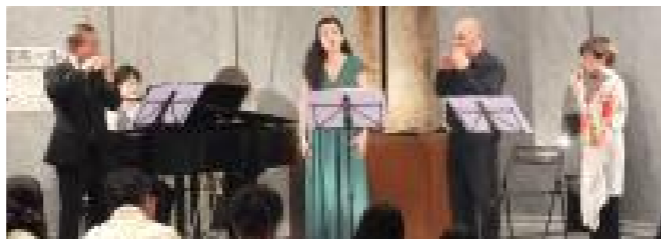
日時：平成31年3月22日(金) 14:30～15:20

会場：楽器博物館 天空ホール

演奏者：エミリアーノ・ベルナゴッツィ、マルツィア・バルダッサリ、

小林理子、嶋和彦(当館前館長)、野口夏菜(当館職員)

参加者：67人



博物館日誌

3/2(土) 講座 楽器の中の聖と俗「琉球王朝の新春 朝拝御規式」
13:30 研修交流センター 401 会議室
講師：西岡信雄(大阪音楽大学名誉教授・浜松市楽器博物館名誉館長)
参加者：24人

3/3(日) 展示室ガイドツアー 11:00(アフリカ)、14:00(アジア)
参加者：60人

3/10(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(ヨーロッパ)
参加者：51人

3/17(日) 展示室ガイドツアー 11:00(アフリカ)、14:00(鍵盤)
参加者：44人

3/17(日) レクチャーコンサート「涙のきらめき～17世紀ザルツブルク・祈りの宮廷音楽～」 18:15 天空ホール
出演：古楽金管アンサンブル「ANGELICO」(宮下 宣子、生稲加奈代、生稲雅成、小倉史生、原田春香、山田秀二、池田 修、上倉 武)、アンドレア・インギッシャーノ、アナイス・チェン、シルケ・グヴェンドリン・シュルツェ、杉村智大、斎藤秀範、能登伊津子
来場者：118人

3/22(金) ミュージアムサロン「オカリナ・ミニコンサート」
14:30 天空ホール 出演：エミリアーノ・ベルナゴッツィ、マルツィア・バルダッサリ、小林理子、嶋和彦(当館前館長)、野口夏菜(当館職員) 参加者：67人

3/24(日) 展示室ガイドツアー 11:00(ヨーロッパ)、14:00(鍵盤)
参加者：79人

3/31(日) 展示室ガイドツアー 11:00(鍵盤)、14:00(アジア)
参加者：54人

4/1(月) ミニ企画展「大正琴歴史館～大正・昭和・平成から新しい時代へ～」開催【5/6(月・祝)まで】

4/5(金) レクチャーコンサート「ショパン オン プレイエル～時代の音に酔いしれる～」 19:00 研修交流センター音楽工房ホール
出演：川口成彦 来場者：195人

4/7(日) 展示室ガイドツアー 11:00(アジア)、14:00(ヨーロッパ)
参加者：50人

♪ギャラリートーク

(職員が毎日数回、展示品をひとつ選んで10分ほど解説)

3月 計106回 参加者：1,897人

これからの催し物

●ギャラリートーク 毎日数回 展示品の解説を行います

●展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説

※催し物により変更もあります

●特別展・企画展

4/1(月)～5/6(月) ミニ企画展「大正琴歴史館～大正・昭和・平成から新しい時代へ～」

楽器博物館展示室

7/25(木)～9/23(月) ミニ企画展「沖繩の誇り・三線」 楽器博物館展示室

8/1(木)～9/23(月) 企画展「楽器と植物・楽器と動物」 楽器博物館展示室

●ミニコンサート 14:00/15:30(各30分) 天空ホール 不定期開催

5/3(金)「中国の阮(ルワン)」出演：タンソクティエン

5/4(土)「アコーディオン&バンジョー」出演：稲川友則、柴田貴子

5/5(日)「ウズベクのドゥタール」出演：駒崎万集

8/7(日)「 Hammondオルガン」出演：浅野仁

8/17(日)「バラグアイのアルバ」出演：長島忠之 ほか

10/6(日)「フルートとチェンバロ」出演：福永吉宏、中野振一郎

●レクチャーコンサート

5/4(土)「国際博物館の日」記念事業

「上方風流寄席囃子～落語と鳴り物の幸せな時間～」

14:00 研修交流センター音楽工房ホール

出演：林家染雀、露の真、林家染八、月亭遊真、はやしや絹代、はやしや京子

5/16(木)「砂漠の街の楽師たち

～インド・ラージャスターンの音楽と楽器～マーングニヤールの芸術～」

19:00 天空ホール 出演：ジャイスアルメル・ビーツ

6/5(水) 日本・オーストリア友好15周年記念

「バリトン～王侯貴族の愛した幻の弦楽器～」

19:00 天空ホール 出演：エステルハージ・アンサンブル

10/19(土)「サラスヴァティー女神の楽器“ヴィーナ”」

18:30 天空ホール 出演：的場裕子、竹原幸一

11/14(木)「よみがえった金属弦アイリッシュ・ハーブ

～鉄の弦・真鍮の弦・銀の弦～」

19:00 天空ホール 出演：寺本圭佑

●講座・ワークショップ

8/24(土) 子どもワークショップ「一休さんも吹いた笛・小さな尺八“一節切

(ひとよぎり)”をつくって鳴らそう！」

13:30～16:00 研修交流センター 講師：相良保之

ふじのくに子ども芸術大学講座 子どもワークショップ

「インドネシアの伝統楽器ガムランを演奏しよう！」

10:00～16:00 研修交流センター

講師：ローフィット・イブラヒム、佐々木宏実、西岡美緒

10/13(日) 親子ワークショップ「羊毛フェルトで楽器の絵を描こう！」

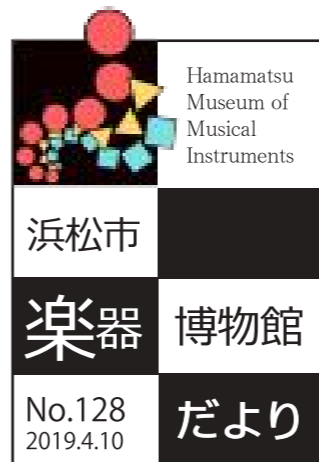
13:30～16:30 研修交流センター 講師：安岡真理、太田紗世

浜松市楽器博物館だより

平成31年4月10日発行 No.128 編集 浜松市楽器博物館

〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1

TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129 URL <http://www.gakkihaku.jp/>



ミニ企画展

大正琴歴史館

～大正・昭和・平成から新しい時代へ～

はじまりました



4月1日(月)からミニ企画展「大正琴歴史館～大正・昭和・平成から新しい時代へ～」が始まりました。

大正琴の発明者は、名古屋市中区の中心地、大須の森田屋旅館の息子として生まれた森田吾郎(本名・川口仁三郎/別名・川口音海/明治7<1874>年～昭和27<1952>年)で、彼は幼少から発明の才があり、音楽好きであったと伝えられています。明清楽の楽器である明笛や月琴、和楽器の一絃琴や二絃琴の演奏にも秀でていました。

大正琴は、大正元(1912)年に、当時人気が高かった二絃琴に、日本ではまだ発売されていなかったタイプライターのキーの機構を組み合わせて考案されました。明治から大正にかけて、数多くの新しい西洋楽器が日本人の手によって発明されてきましたが、今なお多くの人に愛好され、演奏され続けているのは、大正琴だけといって良いでしょう。

このミニ企画展では、初期の大正琴から最新のものまで、それぞれの時代の背景や暮らしの品々とともに紹介してい

ます。また、ギネス世界記録の世界最大の大正琴や、22世紀の未来を想像して作られた大正琴などの大正琴の様々な可能性を感じていただける展示のほか、真空管ラジオや赤電話、ショルダーホンという昔の携帯電話などの生活雑貨品は、それぞれの世代に懐かしさを感じていただきたいと思います。

展覧会が始まった4月1日には、新しい元号「令和」が発表されました。展示を通して、大正・昭和・平成そして令和という新しい時代へと受け継がれていく大正琴の未来を想像してみませんか?

なお、本展は、大正琴全国普及会、有限会社バイオリン研究所、琴伝流の皆様から貴重な資料をお借りしました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

ミニ企画展「大正琴歴史館～大正・昭和・平成から新しい時代へ～」

会期：平成31年4月1日(月)～令和元年5月6日(月・祝)

会場：浜松市楽器博物館 展示室内

料金：常設展観覧料のみ

協力：大正琴全国普及会、有限会社バイオリン研究所、琴伝流

「生きた博物館」に、新たな発展を



着任のご挨拶

館長 鶴田雅之

このたび4月から館長に就任いたしました鶴田雅之と申します。平成7年に設立された当館は来年で25周年を迎えます。これまで、平成という時代を経て築いてきた各展示や関連事業は創意工夫を加え続け、昨年6月には入館者200万人を達成し、11月に天皇皇后両陛下をお迎えするなど、世界に誇れる楽器の博物館として歴史を積み重ねてまいりました。

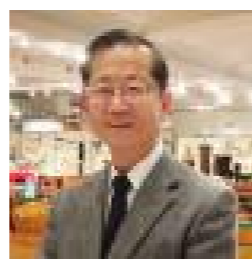
今年は元号が「令和」に変わり、新たなときがいよいよ始まります。楽器博物館に限らず博物館というものは完成形というものがない存在しません。これまでの歴史を踏襲しつつ、新しい時代に向けて発展をしていく必要がございます。当館はこれからも、楽器という「人類」・「もの」・「音楽」との調和を奏でながら「時代」や「地域」を超えてきた多種多様な文化を、皆様とともに探求し新たな展示や事業に活かしていけたら思っております。そして、今年初めて日本で開催されるICOM KYOTO 2019（国際博物館会議京都大会）のテーマは「文化をつなぐミュージアム—伝統を未来へ—」です。引き続き、伝統を未来へつなぐ博物館としての役割も果たしていきたいと考えております。

これまでのご理解とご協力に重ねて感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。



退任のご挨拶

嶋和彦



このたび3月末日をもちまして浜松市楽器博物館館長を退任いたしました。平成16年4月に着任以来、15年間館長を務めさせていただきました。在任中は公私にわたり多くの皆様にご支援ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。今後は専門官・館長補佐として館の発展に尽力してまいりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

私は平成6年から博物館開設準備に関わり、7年の開館より学芸員を務めました。この25年間で私が一番大切にしてきたことは、この博物館を「生きた博物館」にすることでした。博物館は「物の墓場」とか「博物館行き」という言葉があるように、同じミュージアムを和訳した「美術館」と比べると「博物館」は時代遅れの役立たずの古い物が並んでいる、と思われがちです。しかし博物館の資料は「文化の遺産」であり、博物館は先人の残した「知恵と感性の宝庫」であり、かけがえのない私たちの「歴史の証拠品」「心の拠り所」を目の当たりにできる場でもあります。「温故知新」の場なのです。

楽器は目に見える有形遺産ですが、楽器が奏でる音と音楽は目に見えない無形遺産です。その2つのバランスを取り、年老いた楽器、世界の楽器に敬意を払い、手入れをして、演奏を聴いていただくこと、そして楽器や音楽を超えて、その向こうにある人間の文化に思いを馳せていただきたいと思います。

このことは社会に認められ、博物館CDが平成24年度文化庁芸術祭レコード部門の大賞、活動全般が平成26年度小泉文夫音楽賞を受賞しました。近年はヨーロッパで開催される博物館国際会議にも積極的に出席し発表してきましたが、ここでも大きな評価をいただきました。

世界の動向として博物館の役割は今大きく変わろうとしています。それは従来の資料の収集・保管・研究・展示に加えて、現代社会が抱える数々の問題の解決に対する博物館の貢献という役割です。今秋京都で開催される国際博物館会議 ICOM 世界大会のテーマは、まさに「文化をつなぐミュージアム—伝統を未来へ—」です。

昨年天皇皇后両陛下をお迎えする栄誉に与りました。間もなく令和の時代を迎えます。浜松市楽器博物館が浜松市のみならず日本、世界の楽器を通しての「人類の調和」の場になることを願ってやみません。

レクチャーコンサート「涙のきらめき」



レクチャーコンサート

「涙のきらめき～17世紀ザルトツブルク・祈りの宮廷音楽～」
日 時：平成31年3月17日(日)18:15～20:00
場 所：楽器博物館 天空ホール
出 演：古楽金管アンサンブル「ANGELICO」(アンジェリコ)
<池田修、上倉武、宮下宣子、生稲加奈代、
生稲雅威、小倉史生、原田春香、山田秀二>、
アンドレア・インギッシャーノ、アナイス・チェン、
シルケ・グヴェンドリン・シュルツェ、杉村智大、
斎藤秀範、能登伊津子

入場者：118人

平成30年度最後のレクチャーコンサートは、館内天空ホールにて、サクバット奏者の宮下宣子さん主宰の古楽金管楽器アンサンブル「アンジェリコ」と、コルネット奏者のアンドレアさん、バロックヴァイオリン奏者であるアナイスさん、ナチュラルトランペット奏者の杉村さん、斎藤さん、ドゥルツィアン奏者シルケさん、オルガン奏者能登伊津子さんをゲストにお迎えして開催しました。

今回のコンサートでは、本来歌われる曲である「レクイエム」を、普段目にする機会があまりない古楽器で演奏しました。演奏で使われた楽器たちは、現代のオーケストラやブラスバンド等で見かけるいわゆるモダン楽器とは見た目も音色も少しずつ違っています。一見笛のようにも見えるコルネット、現代のトランペットのようなバルブの機構の無いナチュラルトランペット、トロンボーンよりも華奢で小ぶりなつくりのサクバット、ファゴットの前身楽器とされるドゥルツィアン、ヴァイオリンの前身で少し小ぶりのバロックヴァイオリンと、教会音楽には欠かすことができないオルガンという珍しい組み合わせで、一味違ったアンサンブル構成による、煌びやかな音色でお客さんを魅了しました。

レクチャーコンサート「ショパン・オン・プレイエル」

平成31年度最初のレクチャーコンサートは、川口成彦さんをお迎えしました。川口さんは国際的に活躍するピアニストで、昨年11月にポーランドで開催された第1回ショパン国際ピリオド楽器コンクール第2位を受賞されました。このコンクールで使用されたピアノは、作曲家が生きていた時代に作られたピアノです。そういったピアノは、フォルテピアノやピリオド楽器などと呼ばれます。現代の大きなピアノとは構造上異なる部分もあり、奏法や音の響きも違います。作曲当時の楽曲をピリオド楽器で演奏するという行為は本来ならば自然なことであり、また、作曲家が表現しようとしたことを、楽器を通して研究できるという面でも意義深いものです。

今回のコンサートはオール・ショパン・プログラムで、当館所蔵のプレイエルピアノ(1830年、パリ)を使用しました。しかし、このピアノも「プレイエル」と一括りに語ることはできません。製作年代や修復家の違いによっても音色が違い、一台一台に強い個性があります。また、同じ個体でも数年後には違った音色を聞かせることもあります。それこそがピリオド楽器の醍醐味と



も言えるでしょう。川口さんの、一言ひとことを紡ぐような演奏で、プレイエルピアノとショパンの魅力を堪能しました。

レクチャーコンサート

「ショパン・オン・プレイエル～時代の音に酔いしれる～」
日 時：平成31年4月5日(金)19:00～20:30
場 所：研修交流センター 音楽工房ホール
出 演：川口成彦 入場者：195人